

送水施設

送水施設は、浄水場から配水池まで送水する施設で、送水管、送水ポンプ、調整池およびバルブ等の設備で構成され、その送水方式には区域の地形によって、自然流下式、ポンプ加圧式およびその併用式があります。春日井市では地域の特性からすべてポンプ加圧式を採用し、各配水池に送水しています。

東神明配水場

東神明町内に貯水量5000立方メートルの配水池を整備し、水需要が増加していた松本町、白山町、気噴町、高蔵寺町等を廻間配水区から切り替え、昭和50年3月から給水を開始しました。

配水場に送水ポンプ室を建設し、昭和50年9月、神屋町に建設された神屋西配水場へ送水を始めました。さらに昭和61年9月に神屋東配水場、63年9月に神屋中配水場、平成4年10月に上野配水場、11年12月に明知配水場へ送水を始めました。平成8年2月には、貯水量1600立方メートルの配水池を増設しました。

現在、東神明配水場は、5か所の配水場へ送水し、さらに明知配水場から西尾ポンプ場を経て、内津配水場まで送水している東部地区の重要な施設となっています。

主な施設

東神明配水場

施設の概要

① 所在地	春日井市東神明町	⑤ 自家発電機	440V 150KVA
② 稼動開始	昭和50年3月		440V 300KVA
③ 配水池	6,600m ³ (No.1 5,000m ³ No.2 1,600m ³)		
④ ポンプ設備			
送水ポンプ			
	2.2m ³ /min×95m	3台	
	5.8m ³ /min×37m	2台	
	0.5m ³ /min×35m	2台	



東神明配水場